浜松南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

校訓　最善を尽くそう

論説

三つの歌は時の流れに乗って

「やったあー。」と歓声が聞こえ応援太鼓が鳴り響く。本校野球部がヒットを打った時のことだ。会場に居合わせた者でないと分からないとは思うが、球場全体に応援の声がすがすがしく鳴り響いたのだ。しかも、昨年までの本校生徒達が出したことのないような声で。三塁側応援スタンドで、自分は記事のことも忘れて無我夢中に応援していたことを後になって考えると、本校生徒の秘められたエネルギーが一時的にでも爆発した証拠なのだろうかと思った。そして、遂に七回表、初めて球場で「浜松南高応援歌」が歌われたのだ。いや轟いたのだ。その時本校のバッターがヒットを打ち、更に歌声に力がこもり、かつてない程のすばらしい応援歌となった。校内において一度として本校生徒のエネルギッシュな面を自分は見たことがなかっただけに、ある種の感動が横切った。

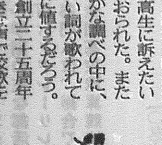
ある中学出身の女生徒の話である。高校入学の面接を受けていた彼女は担当者から「あなたの中学の校歌を歌って下さい。」と注文された。彼女は「ハイ」とはっきりした口調で答え、できる限りの大きな声で歌った。勿論彼女は必死であったろうから、ハジも外聞も捨てていたのだろう。そのせいか担当者は彼女にとても好感が持てたと言うのだ。

このことから自分は創立二十五周年記念式典の時のことを思い出した。「毎日校歌練習を積み重ねたと言っても、よくもまあこれ程大きな声が出るもんだ。」と感心させられたことだ。小鳥の囀りぐらいにしか歌えないことは普段の集会の時の校歌斉唱などに象徴されていた。しかも校歌を公式の場で歌う機会が乏しいことも原因の一つとなっていた。しかし創立二十五周年記念式典はこのことを克服する大きな要因となった。ある先生の言葉で「本校生徒はやればできる。」というのがある。自分は校歌を大きな声で斉唱できるようになったことで一つこの言葉の真意が証明された気がした。

校歌・応援歌・逍遥歌と本校には三つの歌がある。先に述べたように校歌と応援歌については本校生徒は大きな声で歌えるようにはなった。しかし逍遥歌については歌ったことのない人が多く、知らないと言う人さえいるのが現状である。例えば逍遥歌の逍遥という意味を知っているだろうか。ある辞書には「気のむくままにあちこちと遊び歩くこと。そぞろ歩き。散歩。世間の俗事を離れて楽しむこと。」などと書いてある。また本校逍遥歌には「青春の鳥」という名前も付けられている。逍遥歌・青春の鳥・この二つを考えながら、、まず歌詞だけでも目を通してみてはどうだろうか。一見分かりにくい歌詞ではあるが、作詞者である浜松在住の詩人・那須田浩氏は五年前の発表会の講演の中で、四番の歌詞の一部の「抗ういのち、生きる今」という部分を、氏の若い頃の経験から、特に南高生に訴えたいことだと述べておられた。また逍遥歌という静かな調べの中に、このように激しい詞が歌われていることも注目に値するだろう。

校長先生が「創立二十五周年記念式典の時大きな声で校歌を歌えた。この分なら応援歌もじきに歌えるようになるだろう。あとは逍遥歌だ。」と波濤祭の閉祭式でおっしゃったことがある。またこの時コンクールを開催したらどうかともおっしゃった。勿論理由は本校にある三つの歌くらい歌えてほしいとの願いからであろう。

自分達の学校の歌を歌うということは、生徒としてごく自然な姿である。本校では三つの歌のうち二つの歌までは歌えるようになった。だから我々も是非逍遥歌も早く歌えるようになろうではないか。いま、本校の校歌・応援歌・逍遥歌の三つの歌は時の流れに乗って羽ばたこうとしている。



第一回「波濤祭」、その成否は?

我が南高の伝統行事である文化展が、学校創立二十五周年にあたる本年度より名称が変更され、「波濤祭」となった。今年のテーマは「New Wave New Soul」文字どおり、時代の新しい波にのった新しい感性を、という意味であろう。

生徒会執行部の波濤祭成功へのおしみない意欲と、生徒諸君らの努力のおかげで今年は昨年以上の盛り上りをみせた。しかし、問題はまだ多く残されている。今後これをどのように解決していくか、それが波濤祭が、ひいては南高が発展していくキーポイントとなるだろう。

名（迷）演奏 ?!　管弦楽部

HR展は盛況しかし……昨年は迷路。今年は?

—第一回波濤祭点描—

波濤祭の始まりは、例年通り体育館での発表会からであった。ステージは、ダンスや管弦楽部による演奏など趣向を凝らした苦心作ばかりで、時折大変な盛り上りを見せていた。しかし、それにもかかわらず、居眠りや私語をする人が多く、マナーがよいとは言えなかった点が残念に思えた。

HR展は、執行部が企画の段階でだいぶ調整をしたため、同じようなものがかちあうことはほとんどなかったが、やはり全体的に、昨年人気のあったHRの「二番せんじ」が多かったようである。

部展の方も、内容はさほど昨年と変わらないが、出来はかなりのものであった。しかし、HR展のあの熱気に比べると、いかにも盛り上りに欠け、貧弱に見えてしまう。文化部の活動の集大成だけに、部展は展示が多く、それも大切なのでしかたないのかもしれないが、まだまだ工夫の余地は残されているのではないだろうか。

毎年人気のあったのど自慢、有志バンドの演奏は体育館や中庭で行われた。笑いや声援の飛び交う中、マイクの前で一生懸命に歌い、演奏する姿は、とても印象的だった。

幸い今年は雨に降られることもなく、波濤祭を無事に終了させることができた。例年以上の盛り上りを見せ、大成功といってもいいのではないだろうか。

しかしまだ、不満な点がないわけではない。第一に、「南高らしさ」があまりにも少ないという点がある。昔の文化展では凧上げ大会、最後には「ねり」が行われていたそうだ。現在では「ねり」は行われていないし凧も展示のみである。文化祭としては模範的だが個性がない。これでは困る。

また他校の友達に「波濤祭と文化展、具体的にどこが違っているんだ?。」と聞かれたことがある。「名前が違う。」としか答えられなかったが、皆さんならどう答えるだろうか。せっかく「波濤」という南校特有の名に改めたのだから、南校ならではの「売りもの」がほしいところである。

第二に、会長の大久保君も抱負でふれていたが、「みる」楽しさと「参加する」楽しさは違うということである。生徒全員が協力して波濤祭を成功させてこそ、それは成功たりえるのではないだろうか。

天候の不順などによって、ここ数年停滞を余儀なくされていた文化展であるが、それでも、中夜祭や波濤祭実行委員会の発足など、少しずつ変わってきている。いうなれば文化展時代にまいた種が、やっと芽を出したというところであろうか。これを枯らすか、あるいは鮮やかな花を咲かすかは我々次第だといえよう。

新執行部発足

会長に大久保隆文君

六月下旬、生徒会室内はあわただしい雰囲気が漂う。球技大会が近づいていることも影響しているかも知れない。だが生徒会にとっては最も頭が痛い時期なのである。生徒会選挙後の執行部人事である。特に後期からは宮田直大前会長をはじめとする三年生が引退するため、執行部を大改造しなくてはならないのだ。後期生徒会会長である大久保隆文君をはじめとする新執行部は今までとは違った動きを開始した。今から掲載するのは生徒会選挙の結果と新会長大久保隆文君の言である。

六月二十六日、昭和六十二年度後期生徒会選挙が行われた。開票結果は次のとおりである。

生徒会長
信任　大久保隆文
信任　六九八
不信任三七七
無効　一七
普通科副会長
当選　五〇二　小林　尚登
次点　四五九　鈴木　智彦
無効　一二四
商業科副会長
信任　田代千香子
信任　六七二
不信任三六五
無効　二一

今回の選挙では、生徒会長と商業科副会長が信任投票となり、普通科副会長のみが決戦投票となった。結果は、大方の予想に反して、一年生の小林尚登君が二年生の鈴木智彦君を接戦の末みごとに破って当選を果たした。しかし、両者共に不信任ともとれる無効票が一二四票もあり、投票数全体の一割を越したことも注目すべきことである。

また、信任投票となった生徒会長と商業科副会長についても不信任票が投票数全体の三割を越し、普通科副会長の無効票と合わせて今後の生徒会活動に多大な課題を投げかけることとなった。また棄権者数も約三百人と全校生徒の約四分の一を占め、このことは南高生徒の生徒会への意識に大きな問題があることを示したものとなった。

だが、今回の生徒会選挙の中で副会長の二人を注目して頂きたい。なんと二人とも今年入学したばかりの新一年生なのだ。このことが南高生徒会に新風を巻き起こすのではないかと期待される。

後期執行部の新しい顔ぶれ

新会長の抱負

生徒会長、いわば全生徒のリーダーシップを執らなければならない立場になった今、自分がどんなに器の小さな人間かを痛感させられています。その小さな器に注がれるものを周囲の人々に助けてもらいつつ、取りこぼすことのないように一つ一つ慎重に活動をしているので、すばらしい抱負を語ることはできないかも知れませんが、とにかく書いてみたいと思います。

さて、皆さん、まだ記憶に新しいと思いますが、六月十三・十四日に行われた波濤祭のことを思い浮かべて下さい。きっといろいろな思い出が皆さんの頭の中を駆け巡るでしょう。その中で校長先生が言われた、「interesting なおもしろさ」と「amusingなおもしろさ」という言葉も思い浮かべたのではないかと思います。今、思い出されたことのほとんどは「楽しかった」又は「おもしろかった」記憶ではないでしょうか。例えばホームルーム展の準備の時「あんな失敗をしてしまったけれど、良い経験だったな。」とか、「バザーの仕事は忙しかったけど、結構楽しかったな。」とか……。そう考えていくと、当日の各ホームルーム展・部展は確かに面白かったと思います。そして、閉祭式で校長先生が言われたように、そのほとんどは「amusing」なものではなかったでしょうか。「amusing」な経験はそのひとときは確かに楽しいでしょうが、時がたつにつれて忘れられていくことでしょう。それに対して、直接自分が準備に参加したものはどうでしょうか。その評は結果的には「amusing」だったとしても、当日までホームルームやクラブのみんなと夜おそくまでがんばって準備をし、当日も一生懸命に運営をがんばった自分たちがそこから得たものは大きく、自分たちにとって「interesting」とまではいかなくとも、決して「amusing」なものではなかったのではないでしょうか。だから、いつまでも良い思い出として鮮明に記憶されているだろうと思います。

もう分かっていただけたと思いますが、結局、その時はめんどうだと思っても、自分自身が仕事に参加することにより、より一層楽しいものとなり、後々良い思い出となるものなのです。このことは生徒会活動全般に言えることだと僕は考えています。だから、立会演説の時から言っているように、僕は、皆さん一人一人に生徒会を動かしてもらいたいと思います。

生徒会に自分の意見を反映させることが難しいなどと言わないで下さい。方法は、いくらでもあります。そして、生徒一人一人が自分の南高生徒会の思い出を創造しようとすることが、南高生徒会を活性化させることにつながります。そのための手助けや行先案内を僕はしていきたいと思います。

思い出は作ろうとしなければできません。不可能も可能にするくらいの意気込みで……。

遠州灘

「今の若い者は……。」この言葉は、いつの時代、どこの世界でも、年配者によって言われ続けて来た言葉である。そして若者は「大人は我々を分かってくれない。」と言う。しかし、若者は時代の変化に敏感であり、その時代の文化を創ったのは若者である。

しかし、古今東西、不変の若者像というものもある。それは「常に自分の目標を追い続ける。」ということである。そして、そのような情熱によって時代は進歩して来た。

ところが、この、追い続ける目標を持たない、というよりその目標が分からない若者が、特に日本では約20%と異常な高率を示している。そして、そのことが、中退者の増加や五月病の通年化、それに無職少年の増加などの現象につながっている。

この原因は主に三つある。まずは、我が国における過当な競争シンドロームだ。一流高校、一流大学、一流企業と進んで楽[illegible]をすればよい、と教え込[illegible]な生活が必ずしも充実し[illegible]になるのではないから、[illegible]めに生きるべきか分から[illegible]るのは当然だ。

[illegible]物質過剰な現在だ。こ[illegible]モノが余っていれば、特[illegible]を持たなくても何とか食[illegible]ける。

[illegible]て最後は、我が国の集団[illegible]周囲の人間のする通り[illegible]いれば一応の格好はつ[illegible]るようなことはしない。

[illegible]し、現在の高度な文明も[illegible]向かって進んでいった人[illegible]おかげである。青年期は[illegible]の自分の一生を決定づける[illegible]な時期である。若い時こそ[illegible]に自分の情熱を傾けてもよ[illegible]ではなかろうか。

人を語る

「言葉」の魅力

木間啓二先生

今回は国語科の木間啓二先生にご登場頂いた。

言語学に興味を抱いたきっかけは、ルイスキャロルの「不思議の国のアリス」「鏡の国のアリス」であった、と先生は言われた。キャロルの言葉遊び、つまり言葉そのものの意味よりは言葉の配列を大切にし、言葉は意味を伝えるだけではない、という考えの系統をたどっていくと、ひとつの学問に出会った。それがいわゆる構造学という、文の構造によって言語を理解しようとする学問である。

その中にソシュールという学者がいた。記号論の応用で文学を解釈してみようという試みもこの「知識の巨人」と形容される言語学者、フェルディナンリド=ソシュールが祖である、と言われている。この言語学者の残した業績は、後世に言語学はこの人なしでは語れない、と言われるほど、大きなものであった。ソシュール自身は言語学への自らの試みは失敗に終わったと思いつつ、この世を去って逝ったのだが、この人によって言語学は、大きな発展をとげたのである。

さて、この偉大なる言語学者の残した学説をいろいろと先生からうかがったのであるが、その中の一つに、例えばこういうお話しがあった。

従来は、文字の研究をする場合に、作品と作者は切り離すことはできない、と考えられていた。作品が書かれた時、その作者が、どんな時期を迎えていたか、ということは、作品を解釈していく上で重要なことである。しかし、ソシュールをはじめとするブルトン等の言語学者は、作者と作品を切り離して考えようとする試みをはじめた。つまり、作品だけで文学を考えようというのである。そして作家論と作品論を別々にし、作品論を中心とした文学史を作成し、それによって文化のからくりを発見しようとしたのである。当時ヨーロッパ以外の文化には価値がなく、また論理も存在しないという考え方が、ヨーロッパの学者達の間で定着していた考え方であった。故に、ソシュー達の言語学者の考えは、革新的なものであった。

先生がおっしゃられるには、ソシュールはいい意味でも、悪い意味でも広い視野を与えてくれた人なのだそうだ。ソシュールの学説は、先生に影響を与えそしてまた、先生に教えを受ける我々にも影響を及ぼし続けているのではないのだろうか、と考えてやまない。

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎53−1188(代)
旭町店　浜松・旭町(浜松郵便局前)　☎54−0181(代)
高台店　浜松・幸一丁目(ユニー前)　☎73−8118

部員募集中
〜新聞部〜

静岡縣立濱松南高等學校
應援団
只今男女有志募集
希望者最寄応援団員迄

河合塾
'87冬期講習会　10月上旬受付開始
受験生のレベル・ニーズに合わせて数多くの講座を設置
●グリーンコース(高1・高2生)
●大学受験科（高3・高卒生）
12月25日(金)開講
BIG SUCCESS
詳細につきましては、下記窓口まで
〒430　浜松市田町324の3
住友生命浜松田町ビル3階
浜松事務所 TEL(0534)53−5581(代)

創業115年
谷島屋書店
YAJIMAYA
本店　〒430 浜松市連尺町309-1 ☎(0534)53−9121(代)
遠鉄名店ビル店●田町
松菱店●松菱デパート8階
リブレモール●鍛冶町モール街
浜松駅店●コスタ内
なかざわ店●中沢町
駅南店●領家町
毎日ボウル店●有玉南町
浜団地支店●遠州浜2丁目
浜松医大売店●半田町
聖隷病院売店●住吉●三方原

本とレコードの店
BUN GAKU KAN
イケヤ文楽館
☆高林バイパス沿いにOPEN！
広い店内には本あり、レコードあり、ビデオあり
まさに文化を楽しむお店です。
夜10：00まで営業　駐車場完備
MAP
イケヤ
本店　浜松市田町有楽街　(0534)52−5151
鍛冶町店／文楽館高林店／文楽館高台店
磐田店／aiai磐田店／掛川店／袋井店／浜北店

ニューフェイス
応援委員会

今年、新たな執行機関として応援委員会が発足した。今まで本格的な応援機関のなかった本校では、生徒会役員が応援委員を兼任するというものだった。しかし、野球部創設に伴い、新たに本格的な応援機関の発足が必要となった。今から、野球応援、創立二十五周年記念式典といった本校にかってなかったような行事の中で活躍した彼らをレポートする。

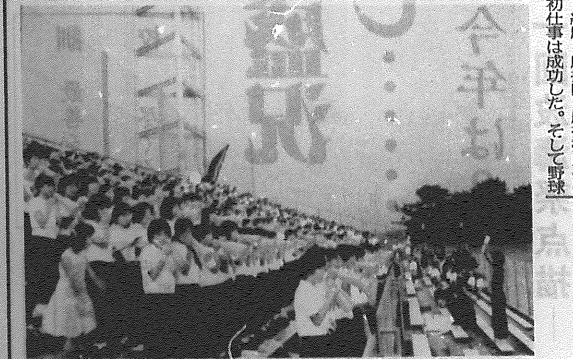
去る七月二十一日、島田球場において、浜松南×御殿場南の野球の応援が行われた。本校応援の為にかけつけた生徒は六百人を数え、すばらしい初の野球応援をやってのけた。そして、野球では負けたものの、公式の場で七回表には応援歌、八回表には校歌を正々堂々、球場に轟くような大きな声で斉唱できたことも、これからの南高の行方を暗示するようなすばらしい応援となった。

さて、今回初の野球応援で、時には後ろから生徒を支え、時には先頭に立って自ら生徒を指導したりした人々がいる。応援団や応援委員会の生徒だ。応援委員会は今年四月に本格的に活動を開始した。あまり知られていないことだが、応援委員会は今年度、突然結成されたものではない。ただ従来の応援委員は生徒会役員の兼任で構成されており、生徒公募がされていなかったため、応援委員会の存在についてほとんど知らされていなかっただけなのである。ところが昨年野球同好会が発足し、今年野球部として夏の高校野球大会に出場が決定したことがきっかけとなり、本校にも本格的な応援のできる体制が必要となり、生徒公募による応援団、応援委員会がスタートしたのである。

ところで、この応援委員会は既に二つの実績を持っている。一つは先に述べた野球応援の成功、そしてもう一つは創立二十五周年記念式典の校歌斉唱の成功である。特に後者においては数日前から一・二年生を集め、本校の恥とならぬよう校歌の練習をさせ、当日来賓の方々からお誉めの言葉を頂く程の大きな声で校歌斉唱できた立て役者であったことである。

野球応援の数日前の放課後、運動場の片隅みで汗だくだくになり、声をからしながらも精一杯応援練習している応援団の姿があった。また応援団長である三年の朝井勝亮さんは、応援団員が毎日声をからしながらがんばっているので生徒のみんなも協力してほしいと言っていた。

結局、応援団、応援委員会の初仕事は成功した。そして野球応援の後で「今年は負けましたが一・二年生には来年があります。また他の応援もまだまだあるんでみんな協力をお願いします。」と応援団長がすがすがしく言ってくれたのが印象的だった。


初応援に力がこもる

各部好成績を残す ～初出場の野球部も健闘～

好調の水泳部 インターハイ出場
文化部（珠算・簿記）も成果

夏休みも終了し二学期がスタートしました。部活動の方も、三年生から一・二年生へとバトンタッチされて、ますますはりきっているのではないでしょうか。だいぶ遅れてしまいましたが、一学期の主な部活の試合結果をここで紹介したいと思います。運動部では、水泳部が男子八百㍍リレー・女子四百㍍メドレーリレーなどで全国大会へ出場、文化部も簿記部が全国高校簿記大会で四十三校中、団体の部・計算部門八位、総合で優秀賞（全国第十一～十二位）また珠算部の29HRの徳井仁美さん、38HRの幸田千春さんが全国高校珠算競技大会に出場、徳井さんが佳良賞（四位）を受賞するなど健闘しました。

○水泳部
—東海大会—
〈男子〉
百㍍自由形
市川昌弘　57秒09
八百㍍リレー　8分35秒13
〈女子〉
百㍍バタフライ
伊藤通子　1分7秒99
二百㍍バタフライ
伊藤通子　2分28秒56
四百㍍メドレーリレー　4分55秒20
四百㍍リレー　4分22秒53
（水泳部の前記の種目は、八月十七～二十日に、函館市民プールで開かれる全国大会にて出場する。）

○サッカー部
—県大会—
一回戦　1—1富士東
（PK合戦4—2）
二回戦　0—1清水工

○男子ソフト部
—県大会—
一回戦　14—3静岡北
（六回コールド）
準決勝　3—11沼津学園

○女子ソフト部
—県大会—
一回戦　2—5三島北

○女子バスケット部
—東海大会—
一回戦　78—54岐阜女子商
準決勝　56—103名古屋短大付
三位決定戦　65—88津島女子
（第四位）

○男子バレー部
—県大会—
一回戦　2—0沼津城北
二回戦　2—0東海大一
準々決勝　0—2下田北

○男子テニス部
—県大会—
二回戦　3—0清水南
三回戦　2—0韮山
四回戦　0—2静岡

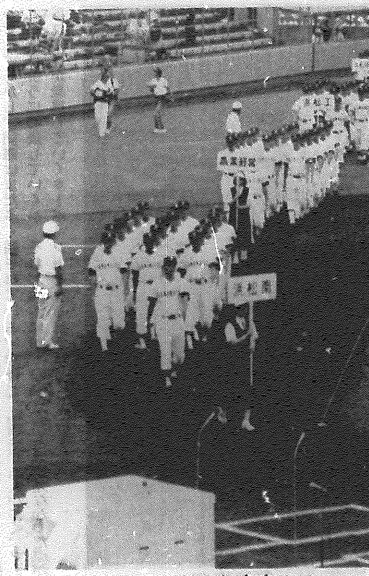
○男子ハンド部
—県大会—
二回戦　17—24静岡西
準決勝　21—19沼津東
11—17清水商
（第三位）

○女子ハンド部
—県大会—
一回戦　19—16吉原
二回戦　4—29清水西

○野球部
一回戦　6—10御殿場南

○簿記部
全国高校簿記大会
団体の部
計算部門　第八位
総合部門　優秀賞
（全国第十一～十二位）

○珠算部
全国高校珠算競技大会
出場者
徳井仁美（29HR）
佳良賞受賞（第四位）
幸田千春（38HR）
（徳井さんは、全日本珠算選手権大会にも出場、惜しくも入賞できなかった。）


初出場で緊張ぎみな南高ナイン

南高ってどんなところ？
—新任教師紹介—

本年度も人事移動によって十二人の先生方が新しく本校に赴任されました。新聞部では、生徒の皆さんに早く、先生方のことを知ってもらおうと、さっそくお話をうかがってきました。紙面の都合で写真の掲載ができず、本当に申しわけありません。

質問内容は次のとおりです。①前任校（出身高）②生年月日 ③担当教科 ④趣味 ⑤南高の印象 ⑥理想の生徒像 ⑦自己PR ⑧抱負

高柳　舜吉教頭先生
①気賀高校
②昭和11年10月17日
③英語
④スポーツ
⑤おとなしくて、まじめ
⑥自主性があって、活気のある生徒
⑦スポーツをすること
⑧広い視野で物事を考える

野嶋　宏二教頭先生
①浜松城北工業高校
②昭和12年8月16日
③理科
④山を歩くこと
⑤良い学校である
⑥自分で自分を律していくこと
⑦ない
⑧南高がどんどん伸びていくようにしたい

吉林　三雄先生
①磐田北高校
②昭和20年6月1日
③英語
④写真・書・スポーツ観戦等
⑤自分はこれだ、というものを身につけてほしい
⑥自分の目的を持ち、しかも他の人間や物事にも関心を持てる人間
⑦万年青年
⑧自己表現できるものを求めて

長坂　輝夫先生
①浜松商業高校
②昭和20年12月4日
③理科一、物理
④登山
⑤個性的な生徒が少ない
⑥自治のある生徒
⑦いつまでも若い気持でいたい
⑧生徒と一緒に一生懸命がんばりたい

須山　嘉七郎先生
①兵庫教育大学大学院学校教育研究科
②昭和30年4月2日
③現代社会、教育学
④将棋、酒
⑤おもしろい
⑥にこやかで、たくましい生徒
⑦清掃はロマンです。（校内を汚す奴は敵だ！井口先生談！）
⑧日々美しく

佐藤　育正先生
①浜松北高校
②昭和31年1月1日
③数学
④音楽鑑賞
⑤明るい
⑥責任感のある生徒
⑦特にありません
⑧卓球部に積極的に取り組みたい

鈴木　正巳先生
①伊東城ケ崎高校
②昭和33年4月8日
③数学
④テニス
⑤部活動がさかん、まじめ、明るい
⑥何事にも最善をつくす生徒
⑦体格が小さく、見た目は弱々しく見えますが、気力では引けをとらないつもりです
⑧南高が地元なのでなるべく長くここでがんばりたい

横原　淳先生
①磐田南高校定時制
②昭和36年2月5日
③保体
④バイク
⑤生徒にガッツがない
⑥いろんなことに情熱をもってとりくむ生徒、それは勉強でも遊びでも良い
⑦私は暴走族ではありません
⑧ただただ一生懸命やるだけです

鈴木　慎一先生
①浜松商業高校定時制
②大正15年9月5日
③社会科（世界史、倫理）
④音楽鑑賞、庭いじり、俳句
⑤明るく素直で気持ちがよい
⑥たくましい生徒、暖かい感じのする生徒
⑦人が困っているのを黙ってみていられない性分
⑧常に若さを失わず力一杯生きていきたい、生徒に信頼される教師になりたい

尾崎　勝也先生
①同志社大学
②昭和32年7月15日
③商業科計算事務
④写真、登山、テニス
⑤健康的で明るい生徒が多い
⑥何事にも興味を持ち、積極的にチャレンジする生徒
⑦自然大好き人間です。今年の11月に結婚します
⑧少しでも生徒のみなさんの力になれたらと思っています

中村　理香先生
①上智大学外国語学部英語学科→Smith college（米国マサチューセッツ州）英文学専攻
②昭和36年7月12日
③英語
④散歩、ドライブ、ピアノ、猫を飼うこと、長電話
⑤明るくて自由な雰囲気がいい
⑥元気がよくて自分の意見をはっきり言う
⑦よく怒りますがよく謝ります。教師になってから昔の非常識な面がなくなったと言われます。最初はかなり人見知りするけど、うちとけるとよくしゃべる。A型のカニ座
⑧元気よく授業をやりましょう。授業が面白くないのは教師の責任ですが、生徒側にも責任はあるということも考えてみてほしいです

村田　行江先生
①筑波大学第二学群人間学類（教育学専攻）
②昭和39年12月7日（射手座）
③国語
④書道、甘い物を食べること
⑤素朴で明るい子が多い。私達の時代に比べて、学校が生徒に対して〝至れり尽せり〟のような気がします
⑥困ったことに直面しても投げやりにならず、真剣に自分の道を切り開いていける生徒
⑦一見、ひ弱そうですが、身心共に丈夫です
⑧外も内も〝先生らしく〟なりたい。ただし〝教師くさく〟ならないようにしたい

先輩を訪ねて（上）
浜松市議会議員
小沢明美さん

今回新設されたこのコーナーでは、現在、社会のいろいろな分野で活躍されている南高卒業生の先輩方から、高校当時の思い出などについて語っていただくことにしました。

先輩方が南高でどんな生活を送り、そこから何を学んだのか、少しでもわかってくれたらと思います。皆さんも、高校生活から何一つ学ぶことなくなんとなく卒業、ということのないようにしてほしいものです。

今回は、三期生で、浜松市議会議員の小沢明美さんにインタビューさせていただきました。議員さんというよりは本当に普通の明るい主婦といった感じの方で、今年中3の明子さんという娘さんもいらっしゃいます。早くに亡くなられた御主人の影響をうけて政治に関心をもちはじめたということですが、どのような高校生活を送られたのでしょうか。

——なぜ南高を志望されたのですか。

「商業科志望でしたので先生に浜商と新設の南高とどちらがよいかと言われて、結局最新の機械があって、家からも近い南高にしました。」

——当時の南高の様子はどうでしたか。

「私達が入学してやっと一～三年までそろいました。校舎はまだ新しかったけれど、プールさえまだなく、ちょうど私は水泳が得意だったのでとても残念でした。新設校の苦労は多くありましたが、生徒達はよりよい伝統をつくっていこうと張り切っていました。」

——部活動はなにを？

「一年の前半は書道部に、その後、バレー部の菊地先生にスカウトされて……家の手伝いもできなくなるので迷いましたが、やってみることにしました。」

——練習は厳しかったですか。

「厳しかったです。私を含めて五人いた一年生が、しまいには私一人になってしまいました。体育館もなかなか使えず、練習はほとんど外のグラウンドでした。土の上ですから練習の終わる頃には泥まみれ汗まみれで、しかも日にやけてまっ黒になってしまいました。あまりの厳しさに私自身何度も退部届を出しましたが受けとってもらえません。つらくてクラブを休むために学校を早退したこともありました。それでもなんとか三年間続けてこれたのは先輩の励ましの言葉があったからではないでしょうか。」

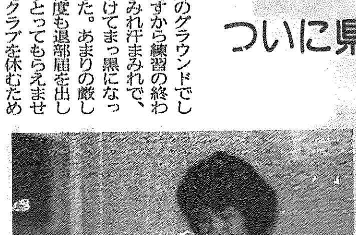
——三年間頑張ってよかったと思うことは？

「まず、三年生の時に県大会に出場できたこと。そして苦しさに耐える精神力がついたことでしょうか。これはどんな苦しみも乗り越えられる自信がついたということだと思います。あの時だって頑張れたんだ、今だってやれる、そう思って苦しいことに自分から立ち向かっていけるようになったんです。選挙運動というのは大変なものなのですが、一度も倒れたりせずにすみました。これもバレーで培った体力と精神力の賜物だと思います。先輩との交友もまだ続いていますし、バレーは私にたくさんのものを与えてくれました。」

今回は部活の話だけでいっぱいになってしまいました。この続きは次の号に掲載したいと思います。

最後に、インタビューに快く応じて下さった小沢明美さん、どうもありがとうございました。

練習、練習の毎日
ついに県大会へ出場


執務中の小沢明美さん

球技大会
結果報告

すでに生徒会会報で報じられましたが、球技大会の結果をもう一度ここに掲載したいと思います。（三位まで）

バレーボール
〈男子〉　一位　35HR
二位　25HR
〈女子〉　一位　33HR
二位　3F

ハンドボール
〈男子〉　一位　32HR
二位　24HR
〈女子〉　一位　30HR
二位　20HR

バスケットボール
〈男子〉　一位　35HR
二位　32HR
〈女子〉　一位　30HR
二位　39HR

テニス
〈男子〉　一位　34HR
二位　21HR
〈女子〉　一位　1F
二位　37HR

ソフトボール
〈男子〉　一位　32・34HR（引き分け一位）
〈女子〉　一位　29HR
二位　30HR

点数合計（三位まで）
〈男子〉
優勝　35HR　20点
二位　32HR　18点
三位　34HR　13点
〈女子〉
優勝　30HR　19点
二位　38HR　13点
三位　39HR・3F　8点

編集後記

二学期が始まりました。皆さん夏休みは有意義にすごせたでしょうか。すごせた人もすごせなかった人も二学期は一層の期待します。

ところで第80号は、二学期早々の発行となりました。これは二十五周年記念号を発行した関係によるもので、次号は二学期の終わりに発行する予定です。

三年生の先輩方も、先号で一応引退して今号から二年生にすべての責任がまかされました。まだ何もわからぬまま試行錯誤しつつ、そしてやっとつくりあげたのがこの新聞です。あらためて三年生の大変さがわかりました。まだ慣れず、こちらも多く申し訳ありませんが、第81号では、少しでもよい新聞をつくれるように頑張りますのでよろしくお願いします。

まだまだ暑い日が続きそうです。皆さんも暑さに負けないように頑張って下さい。

国内旅行は 赤い風船／海外旅行は MACH
日本旅行 浜松営業所　浜松市田町329-20（遠鉄名店ビル北）☎(0534)54-4371(代)
浜松駅旅行センター　浜松市砂山町官有無番地（国鉄浜松駅構内）☎(0534)54-3501(代)
旅の事は、お気軽にご相談下さい。
卒業生　小幡利也

DK値58.8。ゆとりの高酸素透過性ハードコンタクト。
瞳はゆとりのファーストクラス。
新発売 パソネックス
HOYA HARD/58
高酸素透過係数・DK値58.8のレンズ…コンタクトライフにゆとりが誕生。
●装用時間にゆとり。高酸素透過性のため、早く慣れ、長時間の装用が可能。
●装用感にゆとり。優れたデザインで装用感が向上し、涙液交換もスムーズ。
●ゆとりの水濡れ性。水濡れ性がよく、涙とよくなじんで、さわやかなフィッティング。
●清潔さに安心のゆとり。レンズは新しいケアシステムで、いつまでもクリーン。
●ゆとりのトータルバランス。瞳の快適さを守ります。
コンタクトレンズは、眼科医の指示を受けてお求め下さい。
浜松駅前
プレスタワービル8F
コンタクトの アイシティ浜松
※学生割引でお求めいただけます！
〒430 浜松市旭町11-1（プレスタワービル8F）
☎0534(55)1383
■営業時間／AM10:30～PM6:30
■休日／水曜日

贈りものに
全国共通図書券
教科書・新刊書籍・雑誌
参考書・各専門図書・地図
文泉堂書店
〒430 浜松市連尺町314-1　TEL54-6358代表

スーパーグリーン
FRESH No.1
いぐち
県立浜松南高校前
浜松市法枝町616
TEL 41-0050